(33)

氏名(生年月日)	田中真喜子（タナカ マキコ）
本籍	
学位の種類	医学博士
学位授与の番号	乙第1111号
学位授与の日付	平成2年9月21日
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当（博士の学位論文提出者）
学位論文題目	**膵癌に対する集学的治療の臨床的検討**
論文審査委員	（主査）教授　重田　帝子
	（副査）教授　羽生富士夫，浜野　恭一

論文内容の要旨

目的

膵癌は現在，最も予後不良の癌のひとつであり，手術あるいは放射線の単独アプローチでは治療成績に限界がある．本研究では，膵癌に対して手術，放射線治療(術中照射，術後照射)，化学療法を組み合わせた集学的治療を行うため，放射線科と消化器外科で共同プロトコールを作製し，これにもとづいて治療を行い，その効果について検討した．

対象および方法

1983年7月から1987年6月までの4年間で術前検査で遠隔転移の認められないい膵癌60例を対象とした．全例開腹術を行い，肉眼的病期分類を行った．開腹時，肝転移，腹膜播種のみられたものは19例あり，膵癌取扱規約による病期分類では，I期0例，II期9例，III期14例，IV期37例であった．遠隔転移のない症例に対しては可能な限りの根治手術が施行された．術中照射はLinac電子線を用いて全例に行い，切除不能例には腫瘍塊に対して，切除例には腫瘍床に対して照射した．線量は原則として25Gyとした．術後照射は29例に施行し，40Gy/4.5週を原則とした．術後の化学療法は33例に行い(19例は動脈内注入法)，薬剤はMMC，5-FUを用い，術後照射と併用した．

結果

1）1年生存率はII期77.8%，III期28.6%，IV期5.4%であった．

2）肉眼的治癒切除例では1年生存率51.5%，非治癒切除例では22.2%，非切除例では6.4%であった．

3）肉眼的治癒切除例では術後照射および術後化学療法の有無による生存率の差はみられなかった．

4）非治癒切除例および非切除例においては術後照射，術後化学療法施行群でそれぞれ5カ月，4カ月のmedian survivalの延長が得られた．

考察

本学消化器病センターの手術単独の成績と較べると，肉眼的治癒切除例の50%生存期間は16カ月に対し，本研究では20カ月と4カ月延長しており，術中照射がmicroscopicな癌遺残に有効であることが示唆される．非治癒切除，非切除例では，術中照射に術後照射および化学療法を加えることにより生存期間の延長が得られ，また，膵癌特有の頑固な疼痛に放射線治療は有効であり患者のquality of lifeの向上にも貢献すると考えられた．

結語

膵癌の治療成績の向上には，早期診断と根治手術が必要であること，また，集学的治療を行うことにより，進行例においても生存期間の延長が期待できると考えられた．

論 文 審 査 の 要 旨

最も予後不良の癌のひとつである膵癌に，手術，放射線術中・術後照射，化学療法を組合せ，集学的治療法の有用性について臨床的評価を行ったところ，肉眼的治癒切除群の50%生存期間で手術単独成績より明らかに延命効果が得られ，術中照射がmicroscopicな癌遺残に有効なことが示唆された．また，非治癒切除群，非切除群で生存期間の延長と膵癌特有な頑固な疼痛に放射線は有効で，quality of lifeの向上にも貢献し集学的治療の有用性が認められた．学術上価値ある論文である．

主論文公表誌

膵癌に対する集学的治療の臨床的検討
東京女子医科大学雑誌　第59巻　第10・11号
1256-1266頁（平成元年11月25日発行）

副論文公表誌

1）下咽頭・頚部食道癌に対する放射線治療経験
臨放線　29（7）：771-777，1984

2）悪性グリオーマに対する放射線治療経験
臨放線　32（1）：21-26，1987

3）低線量上半身照射の末梢血リンパ球サブセットに及ぼす影響
Biotherapy　4（3）：858-862，1990

4）Radiation therapy alone in the treatment of carcimoma of the uterine cervix : Review of experience at Tokyo Women's Medical College（1969-1983）（子宮頚癌の放射線単独治療：東京女子医大における経験（1969-1983））
Int J Radiat Oncol Biol Phys　13：1845-1849，1987

5）Clinical evaluation of multimodal treatment for squamous cell carcinoma of the maxillary sinus（上顎扁平上皮癌に対する集学的治療の臨床的評価）
日放腫瘍会誌　1（1）：51-59，1989